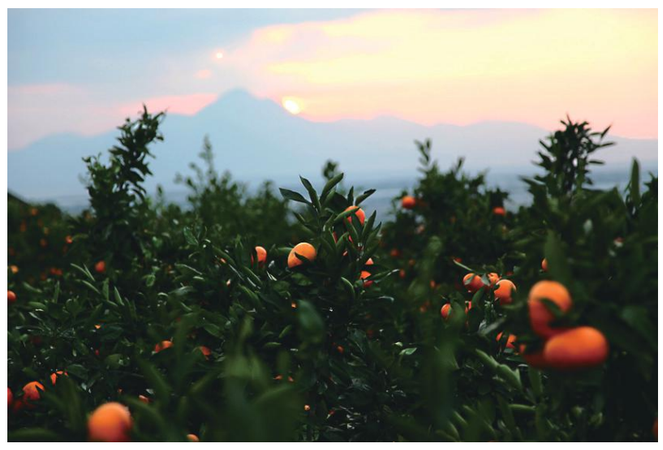
冬 第五回俳句コオト夏日漱石の旅（課題部門）

審査　岩岡中正・田島三閑・村田由美

【冬１　小天のみかん園と雲仙の夕日】



特選　大噴火遠し蜜柑の香の甘し　久保田　聡　神奈川

入選　午後五時の「ゆうやけこやけ」蜜柑山　小川裕子　熊本

奨励賞　凍て空の夕陽に溶ける吾の赤完　有馬広海　福岡

奨励賞　初恋は酸っぱく甘く冬夕焼　竜門　東京

奨励賞　普賢岳眺めてみかん美しく　山野鳳　大阪

奨励賞　島原に映ゆる太陽恋みかん　ゆゆ　埼玉

奨励賞　雲仙の夕日にうかぶみかんかな　さとうくにお　岡山

奨励賞　蜜柑食うまんまる顔の子に夕陽　三田聖子　東京

奨励賞　太陽を食べたみかんが香る岳　井上　靖　神奈川

同　入る陽受け緋よりも赤き蜜柑かな　黒飛義行　広島

同　冬天に抱かれてそびゆ普賢岳　上野智恵子　兵庫

同　みかんへと夕日を運ぐ普賢岳　ふわりねこ　東京

同　生き疲れ蜜柑に映る夕日見る　ハイビスカスとバラ　愛知

同　逝幅にはみだすほどのみかんの木　谷口明美　福岡

同　海と山我ふるさとはみかん熟る　宮川和子　熊本

同　みかんなる夕焼空と輪舞する　美翠　大阪

同　キミの爪みかんに染まり恋しいよ　大野美波　埼玉

同　みかん染まるオレンジ色の夕焼けに　なめこ　広島

同　眠る山橙の雨降り積もる　田中里奈　東京

同　雲を割る赤子が並んで実をつける　ツチヤタカユキ　大阪

同　通る風空見て思うあの時の　しま　千葉

同　みかんのね剥き方教えてくれたおばあちゃん　aggg　東京

同　蜜柑に吸われ砂じょうとなりし夕日かな　はっち　三重

同　炬燵にて蜜柑のかほり仄かかな　Tom　東京

同　甘子熟れ小天の里に日脚伸ぶ　石塚和矢　神奈川

同　手の中に収めた夕日の香りかな　ぽんの助　千葉

同　見上げると蜜柑に夕日きれいだな　ここ　千葉

同　生い茂るホやの間に夕日の子　成澤怜花　埼玉

同　２度切りでみかん摘み取り空切れる　宇都宮千瑞子　愛媛

同　夕日射す雲仙岳やみかんの香　小野みふ　東京

同　雲仙のいのちに染まる蜜柑かな　堀卓　千葉

同　みかんさん空に向かって実ってく　親川和佳　東京

同　蜜柑ほど夕日は山に転がれり　桐生莉緒　東京

同　成熟と照るその笑顔完熟か　もなかまる　京都

同　お約束今日はちょっとと薄化粧　青山　愛　東京

同　オリオンに届けとばかりみかん色　柳谷益弘　静岡

同　夕日またみかんのひとつとなり実る　提善宏　愛媛

同　普賢岳望む夕日の蜜柑園　吉田小春　大阪

同　爪かわいいみかんの養分は夕日　翔龍　愛媛

同　みかん園匂い広がる初冬かな　島田風　東京

同　夕暮れの君と過ごしたみかん畑　浦田莉瑠愛　埼玉

同　白銀で輝く二つの蜜柑かな　小出真実　東京

同　夕暮れや子供たちを守ってる　木村莉子　東京

同　冬霞天地に優い青朱色　毒原ゆきの　東京

同　夕暮れやも少し待たれよ照る蜜柑　椿西会　栃木

同　どまぐるる山にみかんも沈みゆき　樹秀　神奈川

同　普賢岳怒りを秘めて蜜柑みる　梶原宣俊　鹿児島

同　伸ばす手とこぼれる西日冬の蜜　山本莉穂　大阪

同　夕焼けに染められたようなみかんの実　抹茶ミルク　埼玉

同　手を振ってオレンジ色染まる空　方媛玉　台湾

同　みかんの香笑いとともに風に薫る　蘇意晴　台湾

同　見上げるとと蜜柑畑の天の川　林彩真　台湾

同　待つ春の蜜柑畑や夕日差す　りんしきん　台湾

同　夕光にみかん溶けゆく普賢岳　こうきりん　台湾

同　ようようと蜜柑ほおばる山のかげ　滝ノ迫ゆずらない　大阪

同　橙のあざやかに絣常思うや　松澤なつみ　長野

同　円やかに柑子のタ日吸い尽くす　可南堂　福岡

同　名峰を映して染まる蜜柑かな　大坪覚　神奈川

同　靡いたら俺の負けだと雲が言う　日向鳴山　埼玉

同　葉の緑濃ければ怖き蜜柑山　紫苑　千葉

同　山際にたゆたう雲のみかん色　豊島京子　埼玉

同　冬入り日中より普賢菩薩かな　岩田勇　愛知

同　鈴なりの夕日に染まる蜜柑かな　吉田さをり　愛知

同　はるけくも普賢眺むやみかん越し　中原政人　千葉

同　雲仙の頂に夕日みかん色　榊祐作　東京

同　普賢岳に隠るるみかんや桃源郷　磯部薫子　東京

同　二駅目みかん畑のにおいかな　渡邊美愛　愛知

同　みかん山越えて夕日の普賢岳　うふふ　兵庫

同　茜色普賢の空と密柑山　赤松桔梗　福岡

同　空に蜜柑太陽の実り地にありて　佐々木優真　愛知

同　雲仙を借りて蜜柑の色深む　小見伸雄　滋賀

同　湯のかをり小天みかんに普賢岳　中立喜広　京都

同　夕暮れに光のしずくみかん染め　西尾友希　大阪

同　子の叫び普賢遠見の早生蜜柑　つぼさんご　大阪

同　橙を籠抱きて普賢岳　はらは　岐阜

同　みかん供従えるよう山夕陽　稲葉高飛郎　千葉

同　夕暮れや蜜柑も葵の床を敷く　小田中華一　千葉

同　夕日射す穏やか雲仙みかん色　桑原智恵子　大阪

同　夕暮のたまごのやうな蜜柑あり　櫻　東京

同　雲仙のタ日に染まるみかん園　やんちゃん　福島

同　かぐのみやたまなてんすいおあまかな　西分慶雄　東京

同　みかん園夕日差し込み星空のよう　榎本颯奈　大阪

同　茜うつし雲のすきまと緑橙　ながやこうた　東京

同　窮屈な昼は消えゆくゆったりと　根本中堂　千葉

同　あの時を乗り越え実る蜜柑かな　河内義高　愛媛

同　ひとり摘む色濃き蜜柑しづもれる　鈴木白湯　岐阜

【冬２　峠の茶屋の竈】

特選　語り部の席空けて待つ炉辺明り　臭田ひでを　熊本

入選　春を待つ母娘羽釜はなかぱっぱ　臼倉智美　東京

奨励賞　粛として茶屋の竈の寒灯下　安田蝸牛　千葉

奨励賞　返事なく竈居座る漱石忌　泊雲　埼玉

奨励賞　竈の焚口暗き冬灯　熊本芳郎　山口

奨励賞　冬の暮れ飯噴きこぼる竈かな　はんしれい　台湾

奨励賞　髭の先丸く収めて竈猫　播磨翁　兵庫

奨励賞　竈猫ホは博士と言われけり　初霜若葉　京都

奨励賞　今ぬくき場所はここよと竈猫　金子　毅　熊本

同　冬ざるるかまどのけむり祖母の味　堀ノ内和夫　奈良

同　祖母の背の明治の灯り冬の朝　古賀由美子　佐賀

同　猫のこと人間のこと漱石忌　鈴木良二　埼玉

同　冬寒や待つを知りたる竈の湯　木立慈雨　宮城

同　電に雪や霰がジャブを打つ　森下博史　山梨

同　訪ねれば久しく竈炭もなく　森田宏　東京

同　温かさ美味しいご飯お腹空く　ひかり　東京

同　寒い朝焼きたてご飯で温まる　岩橋愛莉　東京

同　蟹穴の竈飯焼け火吹竹　吉田次雄　福島

同　冬の暮れたき火の煙いずこへと　ちょうおんけん　台湾

同　炭の香に頬笑み給う竈神　白樺祥　東京

同　寒の水沸くる茶釜の電かな　大江深夜　東京

同　あさぼらけ揺れる薪と母の汗　細田侑也　大阪

同　火の落ちて久しきかまどゆえゆえと　好日郎　神奈川

同　竈、五右衛門湯たんぽ温し祖母の庵　村田香織　兵庫

同　入日横たふ暖を取る竈かな　源美代子　熊本

同　短日や老父の耳にわらべ唄　梶政幸　千葉

同　婆さんのもてなす竈火時雨やむ　田中恵美子　福岡

同　マドンナと峠の茶屋や竈猫　藤田器一　兵庫

同　真夜中に灰にまみれる竈猫　小山京子　熊本

同　深夜二時話し相手は竈猫　熊猫太夫　福岡

同　一服を癒した竈ここに有り　ゆうゆう　大阪

同　踏み入りて思わずさがす竈猫　仁田尾俊子　熊本

同　神さぶる焔立つ朝冬至粥　奥村こうぶん　東京

同　おくどさんでんと座って昼寝覚め　小板武弘　京都

同　績雪の峠の茶屋でひと休み　木村栄大朗　大阪

同　ひと時の時代とともに今思ふ　糸魚川慎一　大阪

同　恙ぶくれて峠の茶屋のかまどかな　野杭榴子　岐阜

同　白ご飯竈の香りしみこんで　わこわこ　福岡

同　竈猫いきなりだごの小昼かな　鍬田美奈子　熊本

◎たくさんのご応募ありがとうございました。入賞された皆さんには、「草枕の刻」みかんジュースをはじめ、特産品や記念品をお贈りしました。

なお、応募された全句をご覧のとおりに編集し、関係施設などに掲示させていただきました。

《敬称略》

夏の課題

夏１、前田家別邸浴場　夏２、五高記念館

秋の課題

秋１、前田家別邸離れ　秋２、草枕の道（鳥越峠）

締切は、12月末。各季節ごとに、どちらかの課題（写真）を選んで１句投稿できます。（同季に２句は不可）

後期《夏・秋》の課題写真です。

主催
草枕ファン倶楽部
草枕交流館

2020 前期